金融論 II

科目ナンバリング　MOF-202
選択必修　　2単位

冨田　秀昭

1. 授業の概要（ねらい）

金融論のカバーする分野はかなり広範に及びます。家計・企業の資金調達や運用（ファイナンス）、金融機関によるリレーションシップ・バンキング、日本銀行による非伝統的金融政策、ユーロ圏諸国で発生した債務危機（ユーロ危機）問題など、これまで報道で取り上げられてきた事項のごく一部を列挙しただけでも、扱う分野の広さは理解できるでしょう。

「金融論」の授業では、経済学の理論的知識に基づいて金融の現実を理解し、金融と日本経済の実態との関係を説明できるようになることを目指します。

「金融論Ⅱ」では、日本銀行による金融政策の基本的な考え方を理解し、金融政策が日本経済において果たす役割を説明できるようになることを目標とします。

2. 授業の到達目標

① 経済学の理論的知識に基づいて、日本銀行による金融政策の基本的な考え方を理解し、説明できる。
② 日本銀行による金融政策が日本経済において果たす役割を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

（1）小テスト（到達目標①、②）　40%（重要な概念や用語の理解を問うもので、計4回、不定期に実施）
（2）期末試験（到達目標①、②）　60%（全範囲を対象として理解度を問うもので、最終授業時に実施）
・小テストの講評、解説については、次の授業時間内で実施します。

4. 教科書・参考文献

教科書
小林照義　『金融政策（第2版）』　中央経済社、2020年
参考文献
家森信善　『金融論（第3版）』　中央経済社、2022年
酒井良清・鹿野嘉昭　『金融システム（第4版）』　有斐閣、2011年

5. 準備学修の内容

（1）事前に教科書の関連部分を熟読し、疑問点などをチェックして授業に臨んでください。
（2）原則として授業内容の要点を記載したレジュメを毎回配付するほか、必要に応じて配付する資料に基づいて、入門レベルの金融論で必要な論理的な考え方を丁寧に解説することを心掛けるつもりです。帰宅してから、その日の授業で学修した内容を見直すなど、復習に重点を置いて取り組んでください。
（3）配付するレジュメは空欄穴埋め方式とするので、授業を聴きながら該当箇所に用語を記入していくこと（レジュメの完成版は次の回の授業で配付します）。

6. その他履修上の注意事項

（1）入門レベルの金融論を体系立てて理解するため、「金融論Ⅰ」からの連続履修を希望します。
（2）授業中の私語など、他の受講生に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

【第1回】　＜ガイダンス＞
授業目的、授業方法、成績評価、準備学修および授業内容について
【第2回】　＜講義＞　金融政策と日本経済
【第3回】　＜講義＞　金融と通貨の意味
【第4回】　＜講義＞　民間銀行の役割
【第5回】　＜講義＞　日本銀行の役割と金融政策
【第6回】　＜講義＞　日本銀行の金融調節①
【第7回】　＜講義＞　日本銀行の金融調節②
【第8回】　＜講義＞（オンライン授業）　金融政策の波及経路
【第9回】　＜講義＞　「伝統的」金融政策：金利操作
【第10回】　＜講義＞　「非伝統的」金融政策：ゼロ金利・マイナス金利・長短金利操作
【第11回】　＜講義＞　「非伝統的」金融政策：量的緩和・信用緩和
【第12回】　＜講義＞　「非伝統的」金融政策のまとめと今後の課題
【第13回】　＜講義＞　金融政策の新たな枠組み
【第14回】　＜講義＞　日本とアメリカの金融危機
【第15回】　＜まとめ＞
1）授業の総括
2）期末試験